

地域苗等を使用した植栽

和歌山森林管理署



背景と対策



- シカの食害により木本類の緑化が進んでいない
- 生物多様性にも配慮した緑化を推進するため、地域性種苗を植栽



- 鋼製土留工を活用しシカネットを設置
- シカネットは安価なアニマルネットを使用
- 本宮町内で種子採取・栽培した苗木を植栽

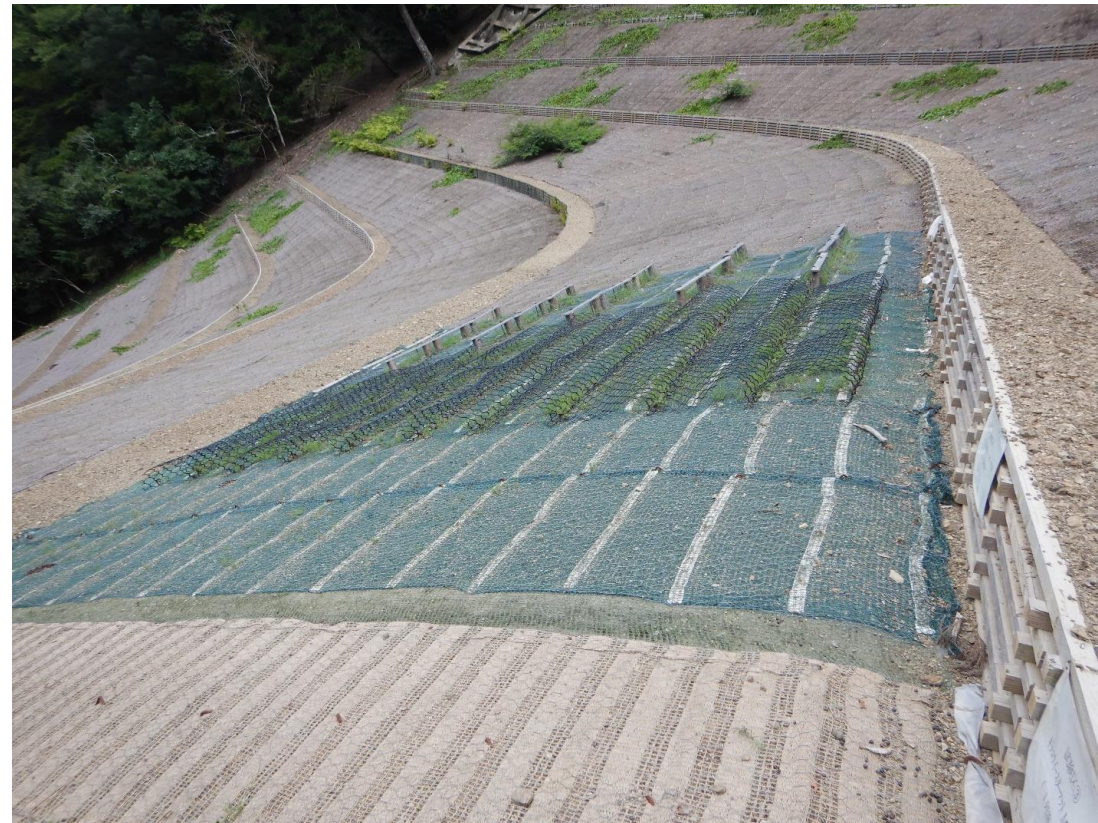
植栽状況



- 本宮町内で種子採取・栽培したウバメガシ100本、ヤマグリ3本、トチ1本、イロハカエデ8本を植栽（周辺の天然林はウバメガシが多く自生）
- 土壌が固く痩せ地であることから、土を掘り起こし、牛ふんを混ぜて植栽

法面緑化におけるシカ対策工法

和歌山森林管理署



- ・シカ害に強い草本類の植栽

現地に生えている草木は、シカがあまり食べない不嗜好性植物
(ニワウルシ、ススキ、ジャケツイバラ、オオルリソウ、ナチシダなど)

植栽に利用できないか？



ススキが繁茂している様子
(八升前)



ススキの根本に生えた木本類
(本田垣内)



ススキ苗

- ・シカ害に強い草本類の植栽



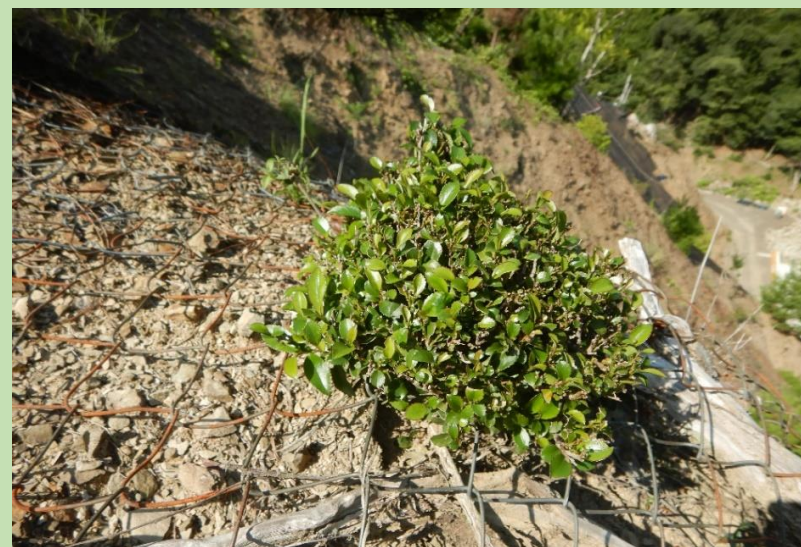
ジャケツイバラに守られているヒサカキ



ジャケツイバラ



トゲがたくさんある



シカによる食害で盆栽状になったヒサカキ

各メーカーによる試験施工

A社

- 試験方法

鹿採餌耐性植物（ススキ、カゼクサ、チカラシバ）種子の播種（播種工）、ススキ植栽

- 施工日時：2025 年6 月5 日



播種



保育ブロック苗



ポット苗（径15cm）



ポット苗（径2cm）

各メーカーによる試験施工

A社

●結果

評価項目	結果	備考
播種工	初期発芽：○ 初期成育：△ 群落形成：×（乾燥+食害）	発芽本数：約 600 本/m ² 成立本数：約 30 本/m ²
植栽工（萱株Φ2 cm）	活着率：8% 食害：有り	植栽本数：90 本
植栽工（萱株Φ15 cm）	活着率：16% 食害：有り	植栽本数：6 本
植栽工（保育ブロック苗）	活着率：20% 食害：有り	植栽本数：15 本
その他	特記事項なし	---

播種工は発芽に一定の成果が見られたが、初期成育期間が7月～8月の乾燥期となった為、鹿の食害と乾燥による生育不良が重なり群落の形成には至らなかった。

萱株苗の植栽工は、乾燥とシカの食害（それに伴う引き抜き）による枯死の2種類の原因が考えられる。

今後は、播種・植栽適期に施工し、鹿の食害に耐えられる群落を形成すること目標とする。

各メーカーによる試験施工

B社

●試験方法

施工日 2022 年 12 月 20 日



工法・資材	製品規格	種子配合
① 植生マット P40 亀甲金網付き	幅 1m×長さ 10m	嗜好性配合
② 鹿嫌ーズ 亀甲金網付き	幅 1m×長さ 10m	不嗜好性配合
③ 鹿嫌ーズ 亀甲金網付き	幅 1m×長さ 10m	不嗜好性配合(特殊肥料入り)
④ 鹿嫌'S マット 亀甲金網付き	幅 1m×長さ 10m	不嗜好性配合 特殊基盤材入

④は他現場で実施

嗜好性種子配合：トールフェスク、ペレニアルライグラス、オーチャードグラス、バヒアグラス、シロクローバー

不嗜好性配合：バミューダグラス、トランスコンチネンタル、クリーピングレッドフェスク、カージナルⅡ、レッドトップ、クリーピングベントグラス、シャーク、ススキ、チカラシバ、ナガバヤブマオ、クララ、メドハギ

各メーカーによる試験施工

B社

●結果 調査日2023年5月

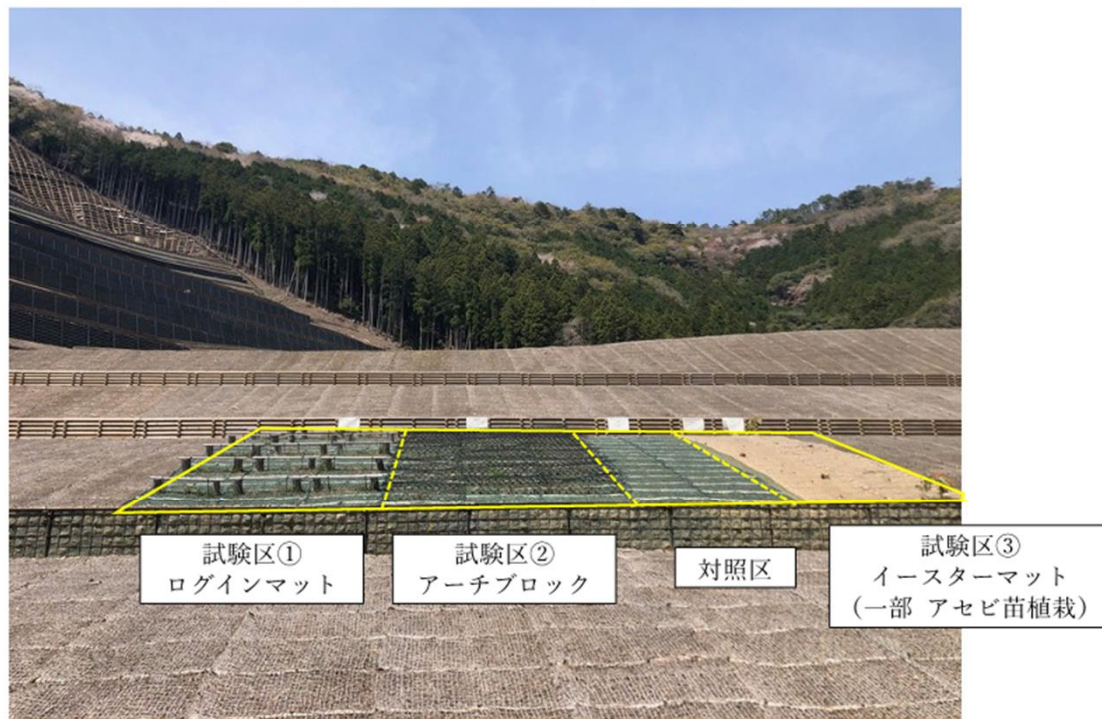
工法・資材	種子配合	結果		備考
①植生マットp40 亀甲金網付き	嗜好性配合	初期発芽は良好であったがすぐに食害にあい 植被率は10%ほどと低い イネ科草本、ホワイトクローバは少量確認できる		
②鹿嫌ーズ 亀甲金網付き	不嗜好性配合	チカラシバ、クララ、メドハギの生育は確認できるが、植被率は低い		
③鹿嫌ーズ 亀甲金網付き	不嗜好性配合(特殊肥料入り)	チカラシバ、クララ、メドハギの生育は確認できるが、植被率は低い 特殊肥料効果もあり②より植被率は高い		
④嫌sマット 亀甲金網付き (他地区)	不嗜好性配合 特殊基盤材入り	植被率は50%と高い		痩せた土地でも生育できるよう特殊基盤材を導入 乾燥により枯れないよう保湿力に考慮したヤシシートを装着

各メーカーによる試験施工

C社

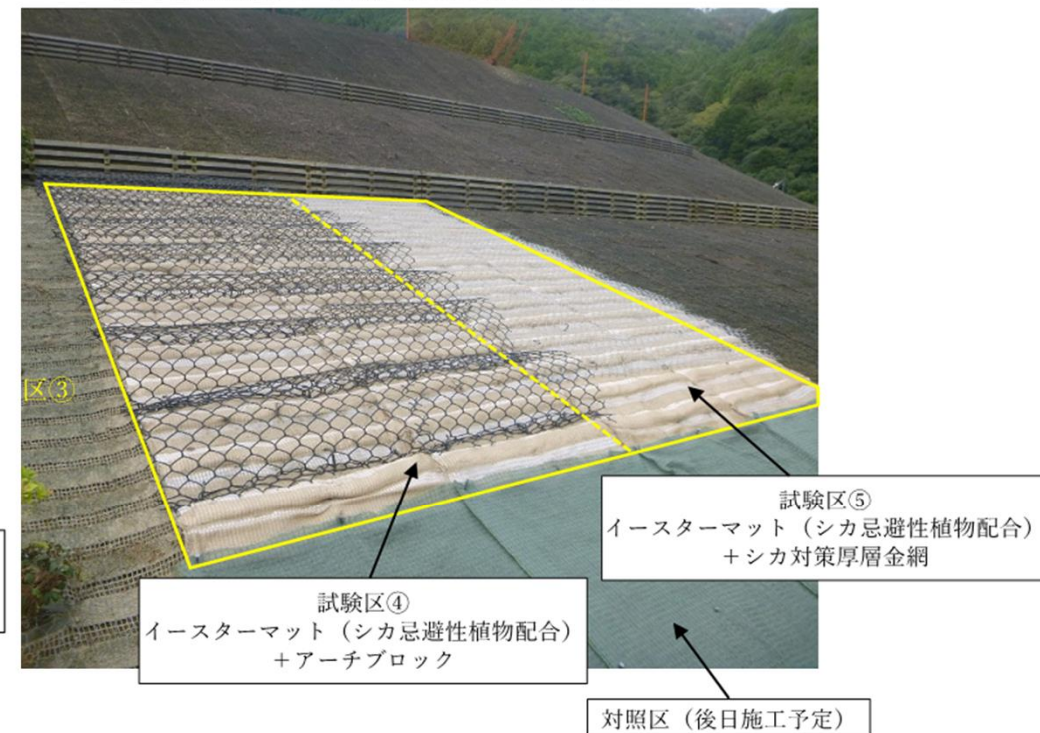
●試験方法

第1回試験施工 全景 (2023/8/22 実施)



注)：試験区①、②及び対照区のマットは亀甲金網付きの植生マット（肥料袋付）を設置。

第2回試験施工 全景 (2025/10/16 実施)



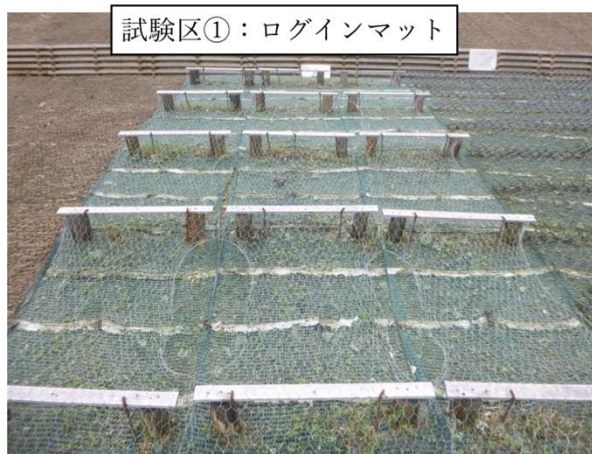
(配合植物：シソ、タデ、チカラシバ、シロクローバ)

各メーカーによる試験施工

C社

●結果

調査日2025年10月



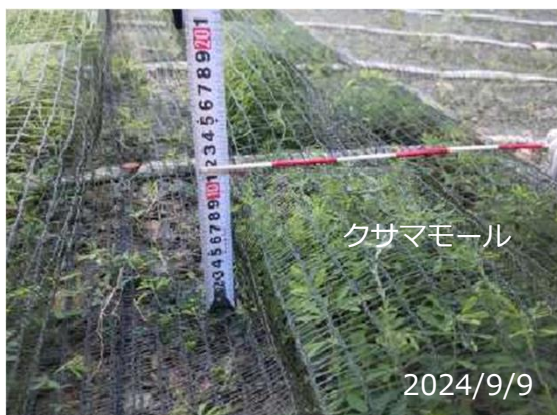
各メーカーによる試験施工

D社

●試験方法（上平治地区、クサマモール）



クサマモール施工 2024/6/26



生育が旺盛な箇所では草丈12cm程度までメドハギが伸長している



2025/10/9



獣害防止ネットの中で約20cmの高さまで生長

クサマモール施工区では獣害防止ネットの効果が顕著に認められ、在来草本種、とくにメドハギの安定した発芽・生育が確認。

一方、ハリシバカンガルーN施工区では、初期段階から発芽本数や草丈に劣り、その後も成長が停滞する傾向が続いた。

各メーカーによる試験施工

●試験方法（上平治地区、アニマルガード）



令和2年度施工



令和4年度施工



トールフェスク22cm



メドハギ31cm

令和2年、4年に対策を実施。実施箇所では各種とも良好に生育し、植被率の維持と基盤材が保持できている。

未施工部に関しては鹿の食害・踏み荒らしにより植被率の低下、金網の露出が更に進んでいる状態。